

血液検査内容の説明

検査結果のとらえかた

検査の基準値は、一般的に健康であると考えられている人の平均的な数値です。
検査値はお薬の影響を受けることがあり、朝と晩・季節・心の状態などで変動することもあります。検査値の示す状態については、主治医の総合的な判断をお聞きください。



川口市立医療センター 検査科（令和7年7月 改）

生化学検査					
	略称	項目名	当院 基準範囲	単位	解説
栄養状態	T P	総蛋白	6.6～8.1	g/dl	血清中の蛋白質の総量です。 肝や腎機能を反映します。
	A L B	アルブミン	4.1～5.1	g/dl	血清の濃さを調節する蛋白質です。 栄養状態や、肝、腎障害などの評価に役立ちます。
肝・胆・膵機能検査	AST (GOT)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13～30	U/l	肝細胞に比較的多く含まれる酵素で肝の障害の程度を判定できます。また、AST は心筋梗塞の診断にも役立ちます。
	ALT (GPT)	アラニンアミノトランスフェラーゼ	10～42(男) 7～23(女)	U/l	
	L D H	乳酸脱水素酵素	124～222	U/l	肝・心筋・骨格筋・赤血球・腫瘍細胞などに多く含まれる酵素で、障害があると血中に増加します。
	A L P	アルカリフォスファターゼ	38～113	U/l	主に肝臓や胆管・骨・小腸に異常があると血中に増加します。
	C H E	コリンエステラーゼ	240～486(男) 201～421(女)	U/l	肝で作られる酵素で、肝機能が低下で減少します。
	A M Y	アミラーゼ	44～132	U/l	唾液腺や膵臓から分泌される酵素です。
	γ-GTP	ガンマーグルタミルトランスフェラーゼ	13～64(男) 9～32(女)	U/l	蛋白質を分解する酵素で、肝・胆道系・膵などの異常の程度を示し、飲酒で高値になることがあります。
	T-Bil	総ビリルビン	0.40～1.50	mg/dl	胆汁成分の1つです。胆道の閉塞、肝機能の低下などにより高値になります。
	D-Bil	直接ビリルビン	0.00～0.20	mg/dl	胆汁成分の1つです。胆道の閉塞、肝機能の低下などにより高値になります。
	血中アンモニア	アンモニア	12～66	μg/dl	体内のアミノ酸が分解されて生じる有害な物質で、肝に障害があると血中濃度が増加します。

筋関連検査	CK	クレアチンキナーゼ	59～248(男) 41～153(女)	U/l	筋肉に多量に存在する酵素で、筋細胞の破壊で血中濃度が増加します。
体内鉄動態	Fe	血清鉄	40～188	μg/dl	赤血球や筋肉・肝臓・脾臓などが障害されると血中に増加します。貧血や鉄分摂取不良で低下します。
糖代謝	Glucose	血糖	73～109	mg/dl	血液中の糖分(ブドウ糖)量を表します。
	HbA1c	グリコヘモグロビンエーワンシー	4.9～6.0	%	赤血球中のヘモグロビンのうち、ブドウ糖と結合しているヘモグロビンの割合を調べる検査です。過去1ヶ月の血糖の状態が分かります。

腎機能検査	BUN	尿素窒素	8.0～20.0	mg/dl	体内の蛋白質が肝臓で分解されてBUNとなります。BUNは腎臓で排出されるので、腎臓に障害があると血中濃度が増加します。
	CRE	クレアチニン	0.65～1.07(男) 0.46～0.79(女)	mg/dl	筋肉の活動後に生じる老廃物です。腎臓に障害があると血中に増加します。
	UA	尿酸	3.7～7.8(男) 2.6～5.5(女)	mg/dl	古くなった細胞や、食物に含まれるプリン体が分解されて生じる物質です。腎臓に障害があると血中に増加します。
脂質代謝	T-cho	総コレステロール	142～248	mg/dl	コレステロールとは体内にある脂質の一種で、T-choはそのコレステロールの総計です。コレステロールにはいくつか種類があり、HDLやLDLなどがあります。HDL-Cは動脈硬化の予防に役立つ善玉コレステロールで、LDL-Cは動脈硬化の原因になる悪玉コレステロールと言われています。
	HDL-C	HDL-コレステロール	40～90(男) 40～103(女)	mg/dl	
	LDL-C	LDL-コレステロール	65～139	mg/dl	
	TG	中性脂肪	40～149(男) 30～149(女)	mg/dl	余分な中性脂肪は動脈硬化を進める一因となります。食事やアルコールによる影響が大きいです。
電解質	Na	ナトリウム	138～145	mmol/L	体の水分を調節します。
	K	カリウム	3.6～4.8	mmol/L	筋肉や神経の働きに関係します。
	Cl	クロール	101～108	mmol/L	体の水分の調節や組織に酸素を供給します。
	Ca	カルシウム	8.8～10.1	mg/dl	骨や歯の形成・神経の伝達・血液の凝固などに関係します。
	P	無機リン	2.7～4.6	mg/dl	骨や歯の形成・神経や筋肉の働きに関係します。
	Mg	マグネシウム	1.8～2.4	mg/dl	骨や歯の形成・筋肉の働き・体温や血圧調節に関係します。

炎症マーカー	CRP	C 反応性蛋白	0.00~0.14	mg/dl	炎症や組織の破壊などで血中に増加します。
--------	-----	---------	-----------	-------	----------------------

血液学的検査					
	略称	項目名	当院基準値	単位	解説
炎症	WBC	白血球数	3.3~8.6	千 / μ l	炎症や造血器の病気を調べる手がかりになります。
貧血検査	RBC	赤血球数	(男)4.35~5.55 (女)3.86~4.92	百万 / μ l	貧血や多血症などを疑うときとその診断に役立ちます。基準値より低いときは貧血を疑います。
	Hb	ヘモグロビン (血色素量)	(男)13.7~16.8 (女)11.6~14.8	g/dl	肺で酸素を受け取り、それを全身に運搬する働きがあります。貧血の診断にも用いられます。
	Ht	ヘマトクリット	(男)40.7~50.1 (女)35.1~44.4	%	一定の容積の血液中に赤血球がどの程度含まれているかの割合です。
	MCV	平均赤血球容積	83.6~98.2	fL	赤血球の平均の大きさを表す指標です。
	MCH	平均赤血球 ヘモグロビン量	27.5~33.2	pg	赤血球 1 個に含まれるヘモグロビンの量の平均値を表す指標です。
	MCHC	平均赤血球 ヘモグロビン濃度	31.7~35.3	%	一定量の赤血球中に含まれるヘモグロビンの割合を表す指標です。
止血	PLT	血小板数	158~348	千 / μ l	低下すると出血が止まりにくくなります。逆に数が増加すると血栓が出来やすくなります。